

CBC NEWS

今回私は国内伝道部による「アドバイザー制度」に基づいて来函し、伝道・牧会上の諸問題について質問されつつ話し合いの時を持った。



私は今函館に来ている。(正確にはホテルの一室でこの原稿を書いている)。この地で、二〇〇二年四月にCBCを卒業してすぐに開拓伝道を開始した女性伝道師が「函館ベテル伝道所」を立ち上げ、約一年半にわたって教会形成を目指して奮闘しながら伝道を展開している。

伝道の第一線

私は今回改めて感じたことがいくつかあった。第一に教室で学んだことは伝道の第一線に立った時に甦ってくるということである。言いかえれば、教室では実感出来なかったことも伝道の現場で実感出来るということである。第二に、それは現場において意欲的に奉仕している時のみ理解出来るということである。労苦の伴わない伝道や牧会はない。



CBC NETWORK

- 七月四日 本校において、堀川師によるネット・チャペルが実施された。
- 七月一・五日、研究科においてハイムス師による講義が開かれた。
- 七月六日、学生が夏期の長期派遣に送り出された。
- 七月七・九日、教師研修会が浜名湖で開かれた。
- 七月十五・十九日、研究科において大坂師による講義が開かれた。
- 八月二四日、久保田師がルーサーライス・セミナーから「牧会博士号」を授与された。
- 九月三日、聖別会が行われた。講師は渡辺師であった。
- 九月四日、授業が開始された。
- 九月八日、理事会と教授会による合同会議が開かれ、神学校校長の推薦選挙が行われた。
- 九月九日、学校理事会が開かれた。
- 九月二三日、献身者準備会が開かれ、十名の方々が参加された。
- 九月二四日、あすみが丘教会の中野尊幸兄によってCBCのデーターベースが完成した。
- 九月二五日、伊藤師から学校に書籍が寄贈された。
- 九月二九日、頌栄教会の鈴木師を招いて「牧師の仕事」と題する講演会が開かれた。
- 九月二九日、来年度卒業予定者の第一回教団理事面接が行われた。
- 九月、直方キリスト伝道所へ復興のための義援金を贈った。
- 十月六日、福音主義神学校協議会が開かれた。
- 十月六日、学生が全生園を訪問し集会を開いた。
- 十月七日、教授会において来年度の役員選出が行われた。
- 十月十二日、関東教区CAの有志たちとCBCとの合同賞美集會が開かれた。
- 十月十六日、込尾師から自作の米(六〇キロ)が寄贈された。
- 十月二七日、学生と教師が昭和記念公園へ遠足に出かけた。
- 本校では書籍とクラスで使用するためのビデオ・プロジェクトを必要としております。皆様からの献金または献品をお願い致します。

後援会のご案内

中央聖書神学校が教団の伝道者養成機関として発足以来、すでに五三年を数えておりますが、その間多くの方々のご協力と献げ物と奉仕によって幾多の伝道者、働き人がこの学舎から輩出されたことは感謝であります。

さらに学校の設備に充実とゆとりのある運営がなされるためには、多くの方々のご賛同を必要としております。どうぞこの点をご理解いただき、是非本会にご入会くださるよう心よりお願い申し上げます。

中央聖書神学校後援会
会長 山田 亘

後援会入会要領

個人会員 一口年五千元
法人会員 一口年一万円
☆連絡は中央聖書神学校内後援会宛にお願いいたします。

編集

後記

新聞部のメンバーになって一年立ちました。最初はCBCニュースを作れるのかという不安がありました。それは日本語の勉強になりますよーと、先輩に励まされました。又、パソコンが苦手の私は、大変素晴らしい経験になりました。神様に委ねたら何でも出来ます。多くの日本にある教会の兄弟姉妹がこの新聞を通して神様の御名によって恵まれ、励まされ、そして召されるよう私たちは願っています。私たちの為にもどうぞ祈ってください。感謝します!(A・L)

編集スタッフ

平松 厳 宮澤 幹彦
山岸よしあ ロペス・アシス
新保 孝史
編集責任者 白石 慎男
事務局 中央聖書神学校
豊島区駒込三二一五二〇
TEL 〇三三三九一八四九二五
FAX 〇三三三九一八四〇九九

静心

校舎、チャペル、食堂、寮、庭そして大きな桜の木。この同じ場所数年間の学生生活を送る。学生の顔は少しずつ変わった。人が変われば学校の雰囲気も変わる。神学校は、いろいろな出会いがある。時には笑い、時には泣き、時には喜び、時には怒る。さまざま人間関係の中で神様の望まれる器へと変えられていく。友と語り、友と賛美し、友と祈る。そして、多くのことを友と共に学ぶ。ここでの出会いは、神様からの贈り物であり、一生の宝である。

今日も新たな出会いを待ち望み、神様の望まれる器へと共に変えられていく。

(Y・Y)



(K・K)

CBC NEWS

秋の装いを感じさせる駒込山。毎週失われた魂を探し求めて出て行く神学生。今回は神学生による伝道活動についてご紹介します。

ゴスペルインザナイト

毎週金曜日七時半からはゴスペルインザナイトが行なわれています。この集会はゴスペルミュージックと聖書のメッセージが中心です。時には神学生たちが迫真の演技を見せるスキット(寸劇)もあり、多くの方々が楽しみにして下さっています。

この集会で福音に触れ、感動で涙を流す人々と関わる事ができ、福音の素晴らしさをもう一度教えられています。

次は自主路傍活動の紹介です。

上野ホームレス伝道

上野公園におられるホームレスの方々を対象にした伝道しています。

毎週、おにぎりやコーヒ、お茶をもつていきます。毎回学生が司会とメッセージの奉仕を担当し、十、十五名の

私たちの伝道活動!!



方々ともに集会をもつていきます。男子学生有志で三ヶ月のローテーションを組み、奉仕を分担しています。又、毎週金曜日の学生伝道集会の際も、学生が送迎の奉仕をしています。

昨年は受洗者が一名起こされました。その方は、木曜日の上野、金曜日の学生伝道集会、そして、教会の一般礼拝に参加して下さっています。ハレルヤ。

滝野川公園伝道

中高生対象にした伝道活動をしています。中高生の心が開かれるのは時間がかかることもあります。最近はその場にいる中学生と一緒に

中央聖書神学校学生募集

主の御声を聞いている者よ、来たれ!

入学資格: 受洗後2年以上を経た忠実な教会員

高校卒業以上

住所: 〒170-0003 東京都豊島区駒込3-15-20

電話番号: 03-3918-4925

http://www.cbc-j.ac.jp

入学願書〆切: 1月27日(火)・入試日: 2月24日(火)

入学案内は学校事務所にお申し出下さい。

サッカー等をして仲良くなり、友達になって、福音に触れる下地を作ろうと努力しています。

東口公園伝道(東中里公園)

対象は、小学生です。最近ではマジックバルーンを持っていき、動物を作って子どもたちの関心を集める努力をしています。来ている子どもたちに聖書のお話をする「もつとイエス様のお話を聞きたい!」という反応もあり、伝道の意欲をかきたてられています。

『i-class』とは?

八〇〇キロを瞬時に越えて

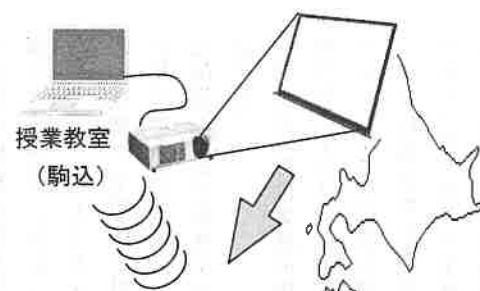
今回は、今CBCで始まっている遠隔地授業についての原稿を堀川師にお願した。

導入までの道程

「インターネットを使って、遠隔地から授業を行う。」この課題に取り組み始めたのは二年以上も前のことである。インターネットを使った無料のテレビ電話サービス(実験に近いものもあった)は既に実用化されていたが、授業が行えるほどの品質と安定性を持っていなかった。それでも、いくつかのサービスを利用して実験を繰り返した。同時に、高品質で安定性の高いサービスを求めて、新規開発も視野に入れた。昨年十二月、CBCのパソコンをサポートしているTMCの津田氏から、「遠隔地授業にうってつけのサービスが見つかりました。」との連絡が入った。そのサービスとはNTT-ITというNTTの子会社が行っている『meeting plaza(ミーティングプラザ)』というものであった。早速試してみると、めんどろな設定作業も要らず、ただ送られてきたURL(ホームページのアドレス)をメール上でダブルクリックするだけでソフト(インターネット・エクスプローラー上で動く)が起動し、あっさりと繋がったのである。動画も音声も予想以上に高品質で、しかも商用のサー

ビスなので、無料のものにありがちな断線や音声の途切れが殆どない。更に、パワーポイント(授業のアウトラインなどを表示するソフト)などの画面が共有でき、書き込んだり線を引いたりすることまで可能であった。「これなら使える!」このサービスを使えば遠隔地授業は可能である、と最初のテストで確信したのであった。

年が明けて、校長先生にもこのサービスを体験して頂き、運営委員会からも承認をいただいた。記念すべき第一回目の遠隔地授業が行われたのは五月六日のことであった。広島の書斎のパソコンにCBCの教室と生徒諸君の顔が、教室には広島からの映像がプロジェクタによってスクリーンに映し出された。声もよく聞こえる。このクラスが守られるように祈り、出席をとる。一人ひとりカメラの前に進み出て、笑顔と明るい声で応えてくれた。今日の授業のアウトラインが表示される。「おーっ」という歓声が響いた。恐る恐る講義を始める。生徒たちがノートを取りながらスクリーンを見つめる姿が確認できる。後は最後まで回線が途切れないことを願いながら講義を続ける。途中、質問の手が上がった。高性能の集音マイクを使っていることもあり、教室のどこにいても声が聞き取れる。一時間の講義が終わったところで学生の感想を聞いてみた。「映像も音も思った以上にクリアで驚いた。」



というコメントと同時に、「普段のクラスと変わらなかった。」と言ってくれたことにホッと胸をなで下ろした。

その後インターネットによる遠隔地授業、通称「i-クラス」は二回、計三回行われたが、そのうちの一回は出張先の松江から行い、インターネットが繋がっている所なら、どこからでも授業ができることが確認された。また、授業以外でも、パソコンと液晶プロジェクタをチャペルに持ち込んで遠隔地からの説教を行ったり、会議にも利用され、活用範囲の広さを証明した。「i-クラス」は導入からわずか三ヶ月で、CBCにおける市民権を確立したのである。



堀川師(広島)

ハード

遠隔地授業を行うために必要なのは二台のパソコンと高速のインターネット(ADSLなど)、それにカメラ(ウェブカメラと呼ばれる五千円程度のもの)とマイクである。パソコンは高性能でなくてもよく、事実、五年前のノートパソコン(セロン2300MHz)でも問題ない。ただし、クラスノートなどを大きく表示するために、液晶プロジェクタが必要である。

コスト

このサービスは一ヶ月一万二千円で二〇時間まで利用できる。インターネットの回線はこのために特別に新設する必要はないので無料と考えて良い。

次世代授業形態!?

メリット

遠隔地授業のメリットは何と言ってもコストが削減できること。交通費や宿泊費が要らなくなるのだから、教師の住所が遠くなればなるほど学校側の負担は軽くなる。このシステムを利用する教師が増えれば、効果は更にアップする。

もう一つのメリットは教師側の負担が軽くなることである。往復の移動時間がなくなり、場合によっては宿泊の必要もなくなるので、これによってセーブできる時間は相当なものである。

デメリットと対策

もちろん良いことばかりではない。デメリットは、学生たちと直接語り合ったり、授業時間以外の交流ができなくなることである。そのため、遠隔地授業だけではなく、クラスでの直接授業も行い、それぞれの長所を生かしながら、学校にも教師にも、そして学生にもプラスになるようなクラス運営を行うことが望ましい。また、講義者の姿が小さな映像でしか現れていないため、パワーポイントを活用した魅力的で分かりやすいクラスノートの作成が肝要である。

これから

今のところ教師とクラスの一对一で行われているが、このシステムは最大三人まで参加することが可能なので、駒込以外の教室や、も

ちろん個人でもインターネットの繋がっているところならどこでもクラスに出席することが可能となる。場所に拘束されない神学教育が現実のものとなったのである。このシステムを使った広域公開講座の開催も検討中である。

このシステムは神学校卒業後の継続教育にも大いに活躍しそうである。なぜなら、授業受けるために高額な交通費と宿泊費を負担し、長期間にわたって教会を留守にしなければならぬからである。

空間的制約に囚われず、自由で効果的な教育インフラ(環境)を与えてくれたインターネットによる遠隔地授業システムが、我が教団の神学教育の幅を大いに広げてくれることを願ってやまない。



オペレーターが教卓に座り、パソコンを操作している(右)



オペレーターから見た様子(上)

授業を受ける学生達の様子(右)

授業を体験した学生の声

ネット授業を始めて経験したギリシャ語Ⅱの受講生十名に対してアンケートを実施したところ、大略次のような結果であった。

- 一、まだ慣れていないということもあるせいか、多少の違和感はあるものの、割合と素直に授業に溶け込めている。
- 二、授業の理解度については、授業内容が視覚化されれば、生徒が理解しやすい環境ができ

る。しかしこの点では教師の工夫が必要であり、負担が増大する恐れもある。

三、質問については、通常の質問は問題ないが、微妙なニュアンスのある質問がしにくい点があり課題を残す。

四、生徒は教師との直接の人格的な触れ合いに、単に知識を得るだけでない大きな価値を見出している。ネット授業の頻度については、二回に一回程度であることを希望している。

五、この実験は神学校における将来の授業のあり方に様々な可能性を示唆するものであり、更なる研究が期待される。

図書館だより

新刊紹介

よくわかるキリスト教

@インターネット

著者：小原克博・野本真也

出版社：教文館

本体価格：1500円



インターネットとキリスト教の関係について多面的・総合的に考察し、テーマ別にウェブサイトの紹介を交えながらその背景にあるキリスト教の特徴を描写。200を超えるサイトの紹介。

夏期派遣証 ~北から南から~

喜び、祈り、感謝！

四年生 佐々木 健

七月五日(土) 高知県、須崎駅に夕方七時到着。ここから私の四国での夏季派遣が始まりました。

八月二一日(木)までの四十八日間、奉仕をさせて頂いた教会、五教会、参加させて頂いたキャンプ三つ、高知県と愛媛県の二県にまたがり、恵み溢れる体験をさせて頂きました。出会うことができた方、数多く、行く先々でのご親切に胸が熱くなり、交わりの中で喜びに満たされました。

二〇日間の窪川(高知県)での自炊と伝道、カナヅチを押しての川と海での水泳、台風の中での教会内キャンプ、朝には雄大な四万十川、夜には満点の星空：振り返るたびに記憶が鮮明に甦ってきます。暗くなるまで子供達と遊んだ日々、唯一自慢のカレー料理と夜遅くまでの語り合い、自然満喫のトラクト配布と訪問伝道、スポーツ、音楽、

ゲームを通じた楽しい交わり：どれも忘れられない体験です。礼拝、祈祷会、家庭集会での恵み、御言葉への応答と熱心な祈り、「主は確かに生きておられる」、何度感動し、心燃やされたのを思い出します。

振り返ってみれば、あつという間の夏期派遣でした。でも一つ一つを思い返す時、その恵みが如何に大きかったことか、言い尽くすことができません。多くの方に出会わせて頂きました。でも同時に、その「一人」「一人」に、主にあるエピソード、感動を思い起こすのです。

お世話になった四国教会の皆様、心からありがとうございます。又、変わらない主の祝福が永久にありますように、お祈り致します。

懐かしの我が家

四年生 倉橋 由香

主の御名を賛美します。私はこの夏、母教会である高

槻キリスト教会に派遣されました。二年前、新入生の時には家から通いでご奉仕をしました。今回は四月から新しい牧師先生に変わり、牧師館に住み込みでのご奉仕でした。まず、最初に先生から言われたご奉仕は「祈ること」でした。何よりもまず自分の為に祈ることが、結局は信徒さんの為、教会の為に。忙しい神学校生活ではつい削られがちな祈りの時間ですが、たつぷりと主との交わりの時間を持てた、幸いな夏期派遣となりました。



嬉しいことはたくさんありましたが、特に求道者を含めたCA・中高生との交わり

を持てたことを感謝します。牧師館で共に食事をしながら、交わりを深めることができました。求道者の青少年たちに、救いの証し・献身の証しが出来たことは本当に嬉しいことでした。また、久しぶりの母教会で、肉体的にも精神的にも霊的にも成長している教会学校の子供たちの姿を見て、何とも言えない喜びを感じました。教会全体にも何かしらの変化が見られ、キリストのからだを成長させて下さる神の力と恵みを思わされました。また個人的には、二年前の母教会派遣ではできなかった、あるいは失敗したことを、主は再びチャレンジさせてくださいました。内に聖霊をいただいている私たちは「生きている」こと、教会は「生きている」ことを実感させていだいたことも大きな収穫です。

多くの方の祈りと励まし、そして尊い献げ物によって支えられ、貴重な夏期派遣を体験させていただき、心から感謝します。